

【各委員からの意見等】

議題（１）の説明…小野健康生活支援課長

「新型コロナウイルス感染症に対応するための海匠保健所の取組について」

*委員からの意見等

[兒玉晃昌 委員]

・医師会として、無理は承知しているが、新型コロナ患者の全数把握をやることで、流行を周知し、危機管理の意識を持つようになるので、再度、全数把握をするようにならないか。

[事務局 小野課長]

・旭中央病院が主催する連携会議の中で小中学校のクラスターの数、旭中央病院の外来の受診数や陽性率が把握できるので、そちらで流行の状況を把握してもらいたい。

[信田光保 委員]

- ①子供たちのワクチン接種はどのような状況か。
- ②第8波に向かう中で、応援職員・応援体制をどの程度、どのタイミングで依頼し、対応するのか。第8波に向けた課題は何か。
- ③一般の電話相談の対応はどれくらいあるか。

[笹本尚子 委員]

①銚子市では、子供の接種率は高齢者の接種率に対してかなり低く、50%に満たない状況である。

[事務局 井元センター長、橋本副センター長、小野課長]

- ①保健所では、子供のワクチンの接種率については把握していない状況である。ただ、子供への接種が進んでいないことは把握しており、今後、旭中央病院との連携会議で、情報提供をしていく。また、保健所だよりで情報発信して不安解消に努め、子供の接種率を高めていく。
- ②現在、本庁の健康福祉政策課で人材派遣会社への委託等について調整をしている。第8波では、現場の状況に応じて、応援職員の人数を拡大していく予定である。
- ③事業年報37ページに掲載されている「感染症に関する電話延数」は、すべてがコロナに関することではないが、1万を超えている状況である。昨年度のデルタ株流行時の問合せから内容が変わってきている。最近は以前より問合せが減っており、療養証明書の発行に関することや後遺症に関すること、「療養期間はいつまでか」といった問合せが多くなっている。

[宮川太 委員]

- ①保健所で日常業務をやる中、コロナ業務をやることによる通常業務への影響はないのか。
- ②保育所施設でクラスターが出た場合には休園になってしまい、保護者が対応しないといけなくなり、大変になるが、保健所は保育所への対応は何かしているか。

[事務局 井元センター長、小野課長]

- ①コロナの業務が圧迫してくると全所体制で対応して業務を止めているものもあるが、期間は短いので、日常業務への支障が出ているとはあまり感じていない。
- ②高齢者等（ハイリスク者）施設への情報が多く、保育園施設への情報はあまりない。連絡等があれば相談にのり、感染拡大防止に向けて対応する。

議題（２）の説明…米谷地域保健福祉課長

「海匠地域・職域連携推進事業（食とメンタル）について」

*委員からの意見等

[越川信一 委員]

- ・銚子市で自殺率が高い要因は、メンタルヘルスで病んでいる人が多いためであると推定されるのか。

[事務局 井元センター長]

・自殺の原因は複雑であるが、最終的には、うつになっている人が多い。人間関係（家庭や職場）、経済的な問題、子育てや介護など、さまざまな原因がある。銚子市で特に自殺が多いという認識はないが、自殺が多い年齢をについては把握しており、自殺対策を実施している。職域連携で、早く発見し、どういうふうに声かけをしていくのか、アプローチが難しい部分になる。そういった人の存在に気付くまではいいが、その人を医療機関に連れていくところに課題がある。

議題（３）の説明…井元センター長

「脳卒中連携ネットワークについて」

[佐野明子 委員]

・多くの患者様がお薬手帳を持つようになって、入院時や医療機関に受診する際に持参されることが多くなっている。これからは電子処方箋になっていき、マイナンバーカードや携帯電話等、インターネット上での管理になっていくと思われるので、今後、お薬手帳のあり方が変わっていくように感じている。

議題（４）

「その他」

[宮内邦明 委員]

・銚子市では、新型コロナの感染発生状況の発生状況は発表されていない状況である。民生・児童委員として高齢者の安否状況を確認した時に、銚子市でのコロナの感染状況について聞かれることがある。住民は、発表されると心配になるし、発表しないと楽観的になる。今後銚子市では、どういう方向で行こうと考えているか。

[越川信一 委員]

・銚子市として全数把握はできない状況である。1週間単位で、コロナの感染状況を報告し、感染が増えた時には、防災無線等を用いて周知する。また、ワクチン接種の推進を図るよう啓発を進めていきたい。